

ガクの形状、着果率などの形質のバランスが優れているホオズキ新品種の育成					
[要約] 県内ホオズキ産地から収集、選抜した系統を交配し、 <u>新品種</u> を育成した。新品種は <u>宿存ガクの形状</u> や <u>着果率</u> など形質のバランスが優れている。ガクの形状は先端が尖り、しわが少なく、 <u>大きさ</u> は親系統の中間であり、在来系統よりも着果率が高い。					
担当部署	八女分場・中山間地作物チーム			連絡先	0943-42-0292
対象作目	花き・花木	専門項目	育種	成果分類	品種育成

[背景・ねらい]

ホオズキ栽培は現在、地域の在来種が利用されているが、着果率の低いもの、宿存ガクの形質が劣る（先端が丸く、しわが多い）もの、また、宿存ガクが小さいものなどがある。

そこで、着果や宿存ガクの形状の良好な系統を県内各産地から収集、選抜して交配を行うことにより、宿存ガクの形状や大きさ、および着果率の優れた新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 宿存ガクは先端が尖り、しわの数が少なく「花粉親」に近い良好な形状をしている。ガクの色は「親系統」や「在来系統」と同等である。また、大きさは5cm前後であり、「子房親」と「花粉親」との中間である（図1、表1）。
2. 6～20節の着果率は90%と高く、「子房親」及び「花粉親」と同等であり、「在来系統」よりも高い。また、2節連続して落果する株の割合も「在来系統」より低く、着果性が優れている（表1）。
3. 草丈は「親系統」や「在来系統」よりも高く、優れている（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 種苗登録後、在来種に替えて普及を図る。

[ 具体的データ ]



「新品種」

「子房親」

「花粉親」

図1 親系統および新品種の宿存ガクの形状

表1 各品種、系統の宿存ガクの形質、着果率および草丈(平成14年度)

	宿存ガク			宿存ガクの大きさ						2連続			
	形状		しわの 多少	10節		15節		20節		着果率 %	落果 株率 %	草丈 cm	総合 評価
	尖	少		横径	縦/横	横径	縦/横	横径	縦/横				
新品種	尖	少	淡赤	48.6	1.0	54.5	1.2	50.5	1.2	90	24	134	
子房親/大・丸	丸	多	淡赤	59.5	0.9	64.0	1.0	60.7	1.1	94	16	126	
花粉親/小・尖	尖	少	淡赤	36.7	1.2	41.0	1.2	37.0	1.2	92	4	112	
在来系統 (参考)	丸	少-中	淡赤	51.0	0.8	60.0	0.9	50.9	1.1	82	50	121	
タンバ	扁平	少-中	淡赤	51.0	0.9	56.5	1.0	55.4	0.9	77	57	118	×
名古屋大実	扁平	少-中	淡赤	54.9	0.8	57.9	1.0	58.3	1.0	79	36	126	×

- 注) 1.子房親、花粉親とも、京築地域の在来種  
 2.着果率：(6～20節までの着果数) / 15節 × 100 (%)  
 3.2連続落果株率：6～20節において、2節連続して落果している株の割合(%)  
 4.草丈：地際部から摘心位置までの高さ  
 5.総合評価：試験場、普及センター、JA等の関係者でガク形状や着果率等を評価  
 6.耕種概要：平成15年1月27日定植. 6月中旬摘心・エスル処理. 7月上旬収穫

[ その他 ]

研究課題名：ホオズキ 7月上中旬出し雨よけ施設栽培技術の確立

予算区分：県特(中山間夏採り野菜)

研究期間：平成14年度(平成11～14年)

研究担当者：月時和隆、林 三徳、柴戸靖志